



こころのねっこ
次号も
おたのしみに!

◎ この冊子・私立幼稚園に関するお問い合わせ

モバイルサイトは
こちらから



公益社団法人 京都府私立幼稚園連盟 親子関係研究所

〒600-8424 京都市下京区室町通り高辻上る山王町561番地 京都私学会館内

TEL: (075) 344-0771 FAX: (075) 344-4177 HP: www.kyoshiyoh.com/renmei/

発行日/2022年6月

京都府私立幼稚園連盟

検索

子どもがまんなかの社会の実現をめざして

こころのねっこ

* cocoro no nekko * Vol. 6

イントロ

こころのねっこを育てよう。

人の育ちを木にとえると、乳幼児期はねっこの部分。乳幼児期は、ねっこが育つ重要な時期

特集

親も子もみんなで沼れ!おにごっこ

先生の
座談会

子育ての不安や悩みは、子どもが育つ喜びの裏がえし。
今しか味わえない、幸せをかみしめて。

お砂場遊び編

幼稚園ではどんな風に遊んでる?

昔あそび

おとうさん、おかあさん いっしょにあそぼうよ。



こころのねっこを 育てよう。

子どもとの生活は、私たち大人に幸せをもたらしてくれます。

わが子の成長に心揺さぶられ、うれしくなったり、ときには心配になることも…。

子どもたちは一人ひとり違う個性を持ち、思考も行動も育ちのペースも様々です。

目の前の子どもといっしょに生活を楽しみ、小さな成長を大きく喜び、過ごしていれば、

春が来ると草木や花が芽吹くように、子どもたちもひとまわり大きく成長しています。

先々の心配をし過ぎないで、子どもと過ごす親子の「いま」を大切に。

そのことがその子の人生の養分を蓄える、「こころのねっこ」を育むことになります。

いっしょに遊ぼうよ

こちょこちょでも、おにごっこでも
子どもとのやりとりを
楽しんで!子どもたちは
自分を大切にされていると
感じています。

毎日がたからもの

子どもたちにとっては一日一日
が成長の時間。家族や友だち、
先生とのふれあいが、かけがえ
のない“たからもの”になります。

子どもが求めたときに

遊びに夢中になっているときは、
そっと見守って。不安になったら
パパママのもとへ行くからね。
抱っこしてほしいと思ったときに
抱っこしてもらえた安心感や
幸福感は、心を育む栄養になります。

失敗しても大丈夫!

いい親にならなくてはいと
頑張り過ぎないで。
いい親のものさしはありません。
子どもと同じ年だけの親で
いいのです。

ひとりで頑張らないで

幼稚園に行くとき育て仲間が
いっぱい!私たち幼稚園も
子育てで生じる不安や悩みに
ついて、いっしょに考えていきたく
と思っています。

焦らず、何度も、ていねいに

一度言ったからといって小さな子ども達が
理解するのは難しいことです。
親として伝えていきたいことは
毎日大人が新しい気持ちになって
焦らず、何度も、ていねいに
育んでいきましょう。

人の育ちを木にと考えると、乳幼児期はねっこの部分。
 しっかりと育まれたねっこは、やがて葉をしげらせ、
 実をつけられるようになります。
 乳幼児期は、ねっこが育つ重要な時期です。

乳幼児期は、10の姿のような目に見えない力=非認知能力を育むことが大切です。非認知能力を大切にすることで認知能力(読み書き、計算、知識など)も育っていきます。乳幼児期(幼稚園)の生活を通して、目に見えない力をじっくりと養い、学校教育への基礎を育てていきましょう。

学んだことを人生や
 社会に生かそうとする
学びに向かう力
 人間性など

実際の社会や
 生活で生きて働く
知識及び技能
 未知の状況にも
 対応できる
思考力、判断力
表現力など

学校教育とは：幼稚園から高校の学校教育を通して
 上記3つの力をバランスよく育みます。

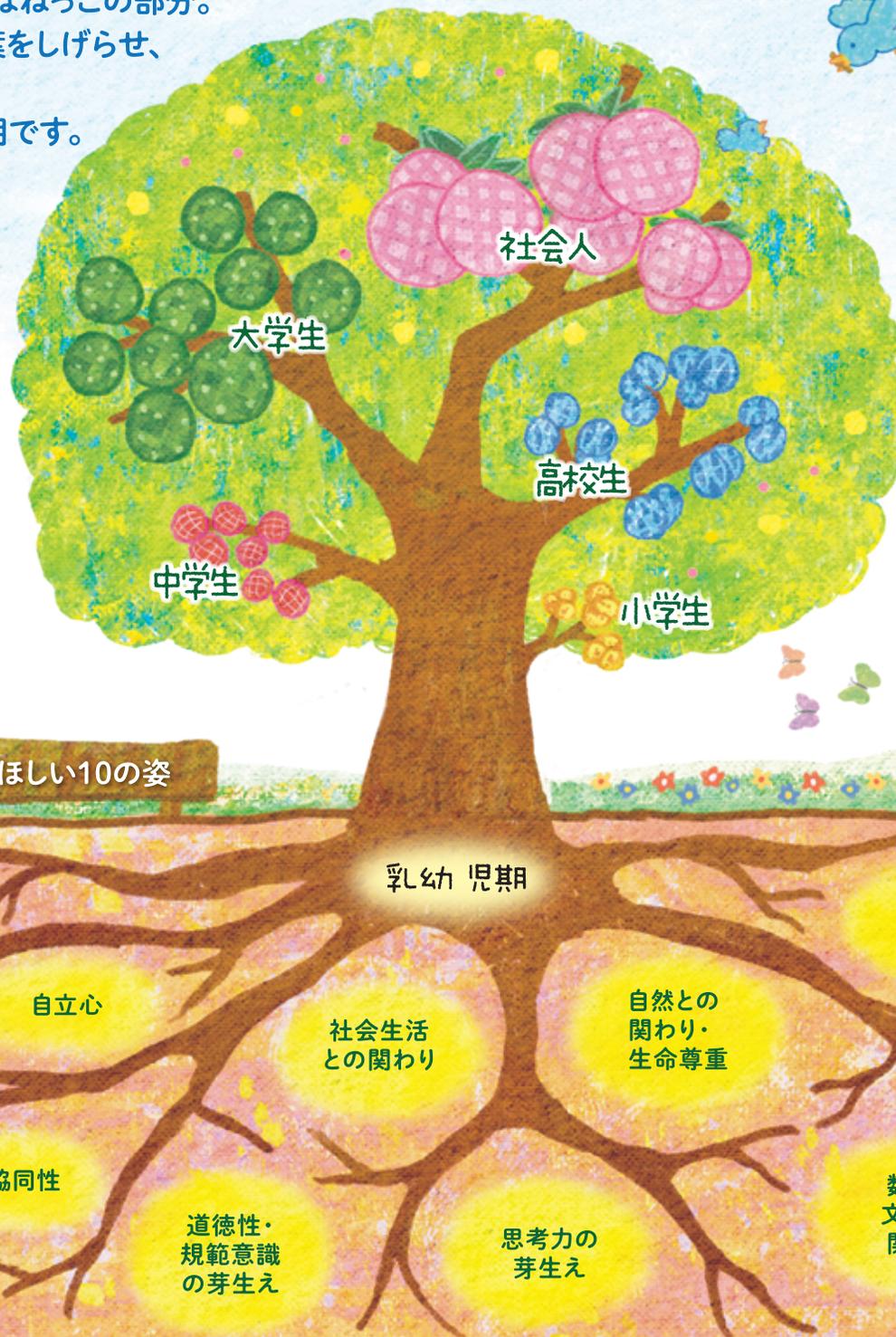
乳幼児期に大切にしたいポイント!

遊びは乳幼児期にふさわしい学び

遊びはやってみたい!こうしたい!という本人の自発的な思いからはじまり、ヒト・モノ・コトと直接関わりながら、その中で頭も心も体も動かして、学んでいきます。まわりの大人たちは、よりよい環境を用意して、子どもたちが自ら育つように見守り、ときにはいっしょに、その時を楽しんでください。

生活リズムが大切

毎日の暮らしの中で、遊ぶ・食べる・寝るといった生活リズムが整っていると子どもは機嫌がいい(脳が喜んでいる)のです。親子で生活の時間帯が違って、食べることについては、1日1回でも家族がいっしょに時間と場を共有できるといいですね。食卓がともにあることで栄養だけでなく心のエネルギーが補給され、コミュニケーション力が形成されます。家庭は「戻ってくれば安心」と思える場であり、エネルギー補給の場であることを、心と体で知ることが乳幼児期にはとても大切です。



幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿

乳幼児期は基本的な生活や自発的な遊びを通して10の姿の基礎をじっくりと養うことが大切です。幼児期の終わりまでに育てほしい姿は、幼稚園と小学校で共有しています。

「We love おにごっこ」
 みんなで沼れ!!
 親子も

誰もが1度は経験のある「おにごっこ」。今、とてもアツイです。いえ、昔から、ずっとアツイのです。その理由を解き明かしてみましょう!

意外と頭を使う!

知力・体力・社会性
 総動員の至高のあそび。

だから面白い

とっさの判断&行動力



ルールのアレンジ



俊敏な動きが身につく!

相手に合わせてよける、手を出すとといった動作が運動能力↑のポイント!

こける、手をつくなど、大ケガを防止する体の使い方をあそびの中で自然に身につけていける。



社会性・認知性が育つ

「追いかける」「追いかられる」のシンプルなルール&動作。

だから面白い

想像力&調整力

自分たちで遊び方を工夫できる

友だち集め、おに決め、ルール決め...
 自由自在に変更できるあそび。



人間関係の入り口

社会性って大切

小さくてもおにごっこ

乳幼児にとって自立と運動のふれあいあそび

追いかけてもらう安心、はなれていく冒険...タッチする嬉しさなど、子どもは生まれながらにおにごっこ好き!?

Colum

乳児が思期のおにごっこの原体験

乳児のおにごっこ(厳密には追いかけて?)は、子どもの自立に深く関係しています。バランスを崩して手をつき、手についた砂を不思議そうに眺めることも、乳児にとっては運動だけではなく経験の宝庫です。また、大好きな大人から「逃げていく」ことができるのは、「追いかけてくれる」信頼と安心があるから。この信頼と安心は「アタッチメント」と言い、子どもは「充電」と「冒険」を繰り返して、一人でいられる時間や活動の距離を積み重ね、自立に繋がります。大人から離れた冒険(逃げる)のご褒美が、大好きな人から捕まえてもらう、タッチしてもらうというスキンシップなもの、おにごっこって、よくできてますよね。



おにごっこを持つ 運動性



スポーツの原点

走る、止まる、曲がる、かがむ、くぐる、跳ねる、避ける、手を伸ばす…。挙げればキリがないほど、動作は多種多様です。さらにボールを投げたり、缶を蹴ったりと、道具を使えば動きの種類はどんどん広がります。

待ち時間ゼロ

習いごとやスポーツ教室の“順番・説明待ち”がなく、一斉に始めてずっと動いていられることが実は大切。結構な運動量の差になります。

無意識・反射的なとっさの重き

子どもが運動を好きか嫌いに関わらず、遊びながら楽しく「とっさの動き」を経験します。体をひねる、こけたときに手をつく、受け身を取る等の動きは、大怪我を防ぎ、自身の身を守るために幼児期から経験することが大切です。

とっさの判断力&行動力

ルールの把握には認知能力が必要です。追いかける？誰を？逃げる？どこに？とっさに状況を判断、整理して実行するので体だけでなく頭も使います。

おにごっこを持つ 認知性

ルールのアレンジ

おにごっこに何を足して、どうアレンジすれば、もっと面白くなるか。それをどうみんなで共有するか。あらゆる社会に役立つ力を身につけるのは、おにごっこのアレンジが教えてくれます。

どうぶつのもノマネをするってどう？



バナナおに



Colum バナナおに

ある幼稚園では“バナナおに”が流行っており、おににタッチされると、両手を上で合わせてバナナになり、逃げる仲間にタッチしてもらおうと人間に戻って逃げられる、といったおにごっこ。“氷おに”とルール自体はちょっと、手を挙げて固まるというところが異なります。しかし、それが大事なよう。「こおりおにしない?」「えー、嫌や」「バナナおにには?」「うん、バナナおにしよか」子どもたちにとって、手を挙げる動作が面白いのか、バナナのイメージが好きなのか、おにごっこのバリエーションは、単なるルール以上の力を持つようです。

Colum ルールは守るもの? 変えるもの?

ルールを守ることは集団遊びの前提で、社会生活の基盤です。おにごっこのシンプルなルールも、守らなければ成立しません。“みんなは逃げる”“おには追いかける”という大前提も、実は子どもたちみんなの協力によって成り立っています。さて、おにごっこには「こおりおに」「いろおに」等のバリエーションや「タッチ返しなし」「ころんだ人にはタッチしない」等の遊び中のローカルルール等、様々なルールがあります。子どもたちには「ルールは守る」ことだけでなく、現状をもっとより良くするために「ルールを作り変える」ことも学んでほしいと思っています。このような問題解決能力は、これからの時代を生き抜く力となります。

おにごっこを持つ 社会性

人間関係の入口

おにごっこは、一人ではできません。いっしょにあそぶ友だちを集めるか、あそんでいる友だちの輪に飛び込むか…。小さな子どもにとっては人と人との関係性を築く経験となり、入口となります。

想像力&調整力

「誰がおにをする?」「あの子ずっとおにじゃない?」「小さい子もいっしょにする?」「おに、かわろうか?」みんなが楽しいおにごっこには、相手のことを考える“想像力”と自分の思いとの“調整”が必要なのです。

まとめ

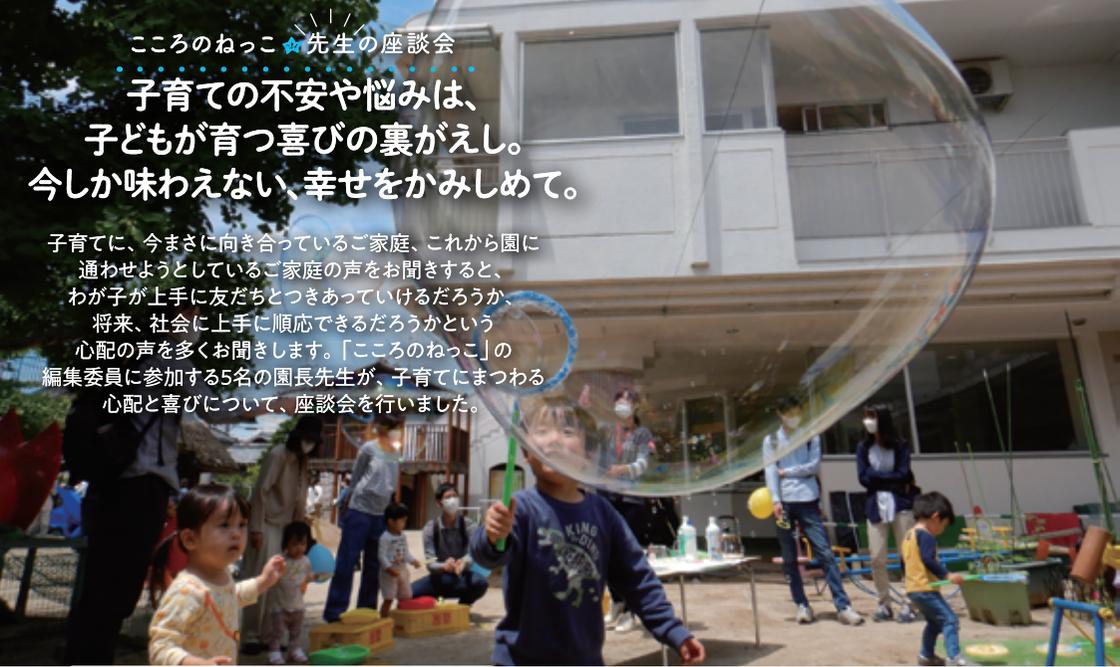
おにごっこは、あまりに自然に始まり、みんなが楽しんで遊ぶので気になりませんが、立ち止まって考えるととても様々な要素が盛り込まれた深い遊びです。それを、子どもたちが“自然”に、“楽しいから”やっているのがいいですね。“よくある遊び”とあなどるなかれ、「生きる力(運動・認知・社会性)」の育みを一手に担ってくれる“おにごっこ”。子どもの運動不足が騒がれる昨今、まずは公園で、お子さんとともにお父さん、お母さんもいっしょに“おにごっこデビュー”してみたいかがですか。

おにごっこ
たのしかった〜!



子育ての不安や悩みは、 子どもが育つ喜びの裏がえし。 今しか味わえない、幸せをかみしめて。

子育てに、今まさに向き合っているご家庭、これから園に通わせようとしているご家庭の声をお聞きすると、わが子が上手に友だちとつきあっているだろうか、将来、社会に上手に順応できるのだろうかという心配の声を多くお聞きします。「こころのねっこ」の編集委員に参加する5名の園長先生が、子育てにまつわる心配と喜びについて、座談会を行いました。



座談会に参加された先生方：**【大西先生】**園長と自らの子育て経験から、親も子ども、みんながって、みんない**【北村先生】**子ども達を撮影しながら、一緒に遊ぶのが大好きな副園長**【田中先生】**家庭では3人の子育てに奮闘中の園長先生**【金樹先生】**おにごっこをする時は園児たちと一緒に全力で走る副園長**【疋田先生】**随分前に子育てをひと通り経験してきたイクメン園長

世の中が便利になり、情報過多になる一方で増す子育ての不安

大西たくさんの園児をお預かりするなかで、わが家にもこの春2歳になる娘がいます。多くの保護者の皆さんも体験されていると思いますが、2歳になるとこだわりや主張がでてきて、なかなか親の思い通りにはいきませんね。たとえば食事。ご飯を残さず食べてもらおうと塩コンブやワカメのふりかけをかけても、好きなコンブばかりを手でつまんで食べようとして、ご飯を残しちゃったりする。(苦笑)

疋田好き嫌いがでてくるのは、自我の芽生えであったり、こだわりの表れ。そこにどのように接していくかが大切ですね。

北村食事ひとつをとっても10年ほど前と比べると、いろんな種類の離乳食が開発され、小さなお子さん

が食べやすいように工夫された食器なども売られていて、子どもの食事を手助けしてくれる食品やツールが随分、充実していると感じます。

田中けれども、それだけで子どもが親の思い通り



に食事を残さずに食べてくれるかということ、そんな簡単なことではないですよね…。

疋田食事の問題だけではなく、お風呂でぐずる、子どもの寝かしつけに苦労するなど、ご家庭での子育ての悩みは尽きないのではないのでしょうか。

北村世の中を見渡すと、スマートフォンが普及して様々な子育て情報が得られ、子ども向けの動画も簡単に見ることができる。街には子連れで気軽に利用できるお店や施設が増える一方で、買い物に

出かけなくても宅配で食材や日用品まで届けてくれるようになるなど、一見、便利になっているように思いますが、それで、子育てがすべてうまくいって、親が不安なく前向きに子育てを楽しめているかというと、それは別問題ですね。

田中いろんなモノとともに、情報が簡単に入手できることで、かえってわが子の育ちについて「これでいいのかしら?」という疑問が強くなる環境とも言えますね。



金樹最近、育児書だけでなく、ネットでもすごくたくさんの子育てに関する情報が調べられますよね。

北村調べれば調べるほど不安が増すっていう側面もあると思います。「私の子育て、大丈夫かしら」っていう。

大西実際に、昨年この冊子「こころのねっこ」で実施した、子育てに関するアンケート調査の中でも、保護者の皆さんから多くの心配や不安の声が寄せられました。

北村アンケート集計や、子育ての本などもそうですが、「みんなはこんな育ちをしていますよ」とか、「この年齢ではこうなってほしい」とか、「こういう子育てがいい」みたいな情報があると、どうしても自分の子と照らし合わせてしまう部分があるかもしれません。

田中興味深い話があって、子育てに関する本に対する親の受け止め方の話なんですけど、日本では自分の子の姿と育児書の姿が違うと、「うちの子はこれと違うから」ということで心配になる。一方で、フランスでは「うちの子が本と違うのは当然だろう」というスタンスで、あくまで自分の子を肯定

的に捉える傾向があるんですって。

金樹面白いですね。確かに平均も、事例もあくまでその他大勢の話であって、「自分の子」がそうでないといけない、なんてことは全く無いですよ。もちろん、日本がダメ、フランスが良いという話でもありませんし。文化や地域性の違いもありますから。

疋田その子の個性を肯定的に見てあげるといってか、その子のありのままのすべてを受け入れて認めてあげるといって事が大切なんですよ。

大西先ほどアンケートで心配や不安の声が多かったという話をしましたが、実はそういう保護者の気持ち、すごくわかるんです。私自身、不安は期待の裏返しというか、わが子に期待しているからこそ生まれる感情だと思っているので。

北村子どもの個性や今の姿を尊重しようとする思いと、子どもにこうあってほしいという思い。その葛藤ですよ。

田中何かの統計資料で、幼稚園の保護者の方は保育所の保護者の方に比べて、子育て不安度が高いという結果を見ました。でもこれ、不安があるから良くないという話ではなく、子育てに向き合い、考えれば考えるほど不安が高まるのは自然なことだと思います。



北村その不安、わが子と真剣に向き合っている証拠ですよ、と保護者の方にお伝えしたいですね。いろいろと心配をしながらもわが子を肯定的に受け入れる、そのこと自体が素晴らしいことです。大丈夫、自分の子育てにもっと自信を持っていいんですよ。

疋田親が子どもの個性を認めてあげることの大切

さは良く分かります。特に、一人目のお子さんの保護者の方は、とても頑張っておられます。でも、その分肩に力が入っているので「お母さん、肩に力入ってますよ」って思わず言ってしまう。

北村すごい。言ってあげるんですね。

疋田「頑張っているのは分かるけど、ひとりで頑張り過ぎないでくださいね」という声もかけます。お母さんも、その時は悩まれるかもしれませんが、次第に要領を得ていけますよね。経験を重ねて、力の抜きどころとかが分かっていくのも子育ての醍醐味のひとつかと思っています。

金樹誰かに頼るっていうのも大切ですね。どこかで得た情報の物差しに合わせようとするのではなく、実際に誰かに相談する。

疋田子育ては経験がものをいう部分もありますからね。

北村子育ては親だけがするものではなくて、いろんな人がかかわってするもの。親も、集団で、皆で子育てしていこうって思います。それが、子どもにとっても親にとっても、幸せな子育てじゃないかなって。なので、子どもの生活の心配事の相談も勿論ですが、保護者同士の交流や、保育者とのお話など、保護者の方には気兼ねなく園に足を運んで欲しいと思います。

子どもが自ら育とうとする、 子どもの力を信じることの大切さ

田中子育てには、うまくいくこともいかないことも、楽しいことも辛いこともあるとは思いますが、これが正解、これは失敗といった解はないですね。

大西今号の別のコーナーで紹介している動画では、子どもが「けんけんぱ」で遊ぶ中で、ひつついたり離れたり様々な距離感で、実に生き生きと楽しんでいる姿が見られます。別の遊びをしている子が横切ったりして、実際に幼稚園で遊んでいる子どもの自然な姿が見られる素敵な動画です。

金樹初めて幼稚園で過ごす2~3歳の子が、いきなり「けんけんぱ」ができるようになるわけではない

ですが、自分の周りで実際に遊んでいる子どもたちがいるといった環境こそが大切ですね。

疋田年上の子が遊んでいる姿を見て、自分も遊びの輪の中に入っていったら面倒を見もらったりしながら、だんだんと一緒に遊べるようになる。子ども同士の遊びの中で、文化が伝わり広がっていく様子が伺えますね。

大西それこそ昭和の時代は、近所の道端や路地で子どもたちの遊びが繰り広げられていましたが、今の時代は、そういう経験をする場がどんどんなくなってきているので幼稚園、こども園で、子どもがみんなと遊んで過ごす機会は、とても貴重で意味のあることだと思います。



北村2~3歳は、ごっこあそびができれば○です。ただただ友だちを見ている子がいて、一見、なにもしないように見えても、その子は周りの子どもを見て理解をしようという、その子なりのプロセスがあります。

大西子どもは、めいめいに自分の世界で遊ぶなかで、おもちゃの取り合いがはじまり、手があたって泣いてしまう…。そうした経験のなかで他の子どもの存在に気づき、次第にまわりの子どもと人間関係をつくっていく。その結果が仲良くなるということですね。

北村幼稚園に通っている間に、どれだけ自分の欲求を出しながらも、子ども同士の関係をつくることができるか。そこに大人が介入しすぎるのは良くありません。

田中幼稚園では、友だちと絡まなくても一人遊びが好きでもいい。自分の価値観が大事なんです。遊

ぶうちに、横に誰がいてもいいよと子ども同士で空間を共有し、他者を受け入れることができるようになると社会性が芽生えます。



大西そうですね、子どもたちは最初から幼稚園に友だちと仲良くなるために来るのではないですね。集団のなかで自分のしたいことをしていれば、他者とぶつかりケンカにもなるけれど、友だちということで学ぶことはたくさんあります。

北村私は、子どもたちが強く生き抜くために、トラブルがあったときにだれかに相談する力、失敗したときに、試行錯誤して乗り越える力、友だちと協働(仲良く)する力。これらの3つの力を身につけてほしいと思います。

田中そうした力を子どもたちが自然と身につけるためにも、幼稚園、こども園は、子どもたちがしたいことをするために来る場所でありたいですね。

こころのねっこを育てる喜び、 その幸せを共有するために

大西子どもたちが園で一生涯懸命に遊び、満足しきって過ごすと、明日は今日よりもっと楽しく過ごしたいと意欲をもって帰ります。その度に見えないチカラ、非認知能力が養われていると思います。

金樹決められたことやルールに従って行動することを多く求められる現代、自分で判断するのはすごく大変なことですが、大人よりも子どもの方が何でも「自分で決める、自分でやる」という意思を強く感じます。

大西雨の日には、幼稚園の先生は部屋の中で活動で

きるように準備をしますが、お構いなしに庭に飛び出して子どもがいます。雨の日にはしか体験できない楽しみがあることを、子ども達はちゃんとわかっています。そうした行動を大人が制限してしまうと、子どもの意欲を奪うことにもなりかねません。

田中自分でやりたいことを決めて、自分でやるというのは幼稚園は、大学と同じ。幼稚園はただお子さんを預かりする場ではなく、ご家庭と子育てを一緒に頑張ろうという場だと感じます。三つ子の魂百までと言われるように2・3・4歳の時期の育成は、ご家庭と園との連携が本当に大切なんです。

北村下の写真は、子どもたちがお店ごっこをしていて、お客さんになったお母さん方が、みんなで乾杯!といったシーン。お母さん方の顔を見ると、子どもが成長していく幸せを皆さんが共有しているのが伝わります。忙しいながらも子育てって楽しい、幸せってことを体験いただけると本当に嬉しいです。



大西子どもが花を集めて帰るたびに、幼稚園ではこういう遊びをしているんだということが感じられると話して下さるお母さんがいます。わが子にしてあげたいと思うことを、幼稚園で体験して帰ってくる喜びや、その体験を家族で共有する幸せは、まさに子育て期でしか味わえない幸せではないでしょうか。

北村この「こころのねっこ」では毎年、先生方が集まり、様々な問題に向き合い、園とご家庭と一緒に子育てに取り組もうという思いで編集に取り組んでいます。お母さん、お父さん、心配しなくても大丈夫。子育てで悩むこともこの時期しか得られない幸せです。

疋田お子さんと過ごすハッピーな時間を、一緒に楽しみましょうとお伝えしたいですね。

3歳児～5歳児の子どもたち 幼稚園ではどんな風に遊んでる？

異なる学年の子どもが生活を送る幼稚園。学年によってどんな姿を、どんな育ちを見せてくれるのでしょうか。遊びから少しのぞいてみましょう。

お石土島
遊び編

年少
3歳児

みんなのお店

「ケーキ屋さん」の声を聞いて、まわりの子ども達もいろいろなスイーツを作り始めました。作る人、売る人、分担してみんなで遊んでいます。



何してるの？
(先生)

スコップで砂を
平らに入れたり、
ケーキを作ったり
しています

ケーキ屋さん!

お店の後ろで作る係が
かき氷やケーキを
どんどん作ってくれます

ケーキ
ありま〜す!

アイスクリームやかき氷を
カウンターに並べて出す
店員役の子どもたち

年齢とともに成長する子どもの育ちの一例

人と
関わる
力

一人遊びが多い時期ですが、
ときには複数で遊ぶことも。

考える
力

まわりを見たり、役割を考えたりしながら、
自分で決めて遊びに没頭します。

工夫する
力

砂を押し固めてケーキを作ったり、それを並べて
お店屋さんしたりと発展させる姿も見られます。

年中
4歳児

お山をつくろう!

「お山をつくろう」の一
を考えます。砂を集め
いっしょに作っています。



お山をつくろう!!
たくさん
砂をおつめて

このローラーで
かためよう

お山をつくろう!!
もっと大きく
もっと高く

スコップでまわりを
かためてっ

年長
5歳児

ラーメン屋さん&トンネル作り

日常生活の経験も遊びの対象に。ラーメン作りから食べる
ところ、替え玉をするところと発想が広がっていきます。トンネルを
通したいけど入らない。そんなときは協力しながら取り組みます。



ありがとう
ございます

お待ちせました!
ラーメン替え玉です

手伝うよ

お山にトンネル...
あれ!? 入らない!!

仲良しのお友だちと遊んでい
中程度の集団で遊ぶことも。

ます。ときにはもう少し多い、

イメージを共有しながら遊ん
に考えたり、伝え合ったりする

だりします。いっしょ
姿も見られます。

効率よく砂を集めるため、手
形にしたり、ローラーやスコッ
状況に合わせた工夫が見られ

をブルドーザーの
プで固めたりと
ます。

集団での遊びが多い時期です。
ときにはクラスのみならずといった大集団で遊ぶことも。

想像をふくらませ、遊びやルールを作り、
必要な役割を考え、判断しながら協力して遊びます。

製作だけではなく、ストーリー性をもたせたり、
変化の過程を楽しんだりしながら遊ぶことも。
感情等も共有しながら遊び、寄り添う姿も見られます。

おとうさん、おかあさん いっしょにあそぼうよ。



今回は、日本で昔から楽しんでいる遊びを紹介します。
時間を見つけていっしょにお子さんと遊んでみませんか。
遊びを通じて、子どもたちの“こころのねっこ”はぐんぐん育ちます。

親子や友だちとコミュニケーションができる
日本の伝統的な遊びに触れてみよう!
遊び方やルールは極めてシンプルです。



①

地面に丸を描く



②

丸が一つの
ところは片足で



③

丸が二つの
ところは両足で



「けんけんぱ」を
優しいお姉さん
がわかりやすく
解説



遊びながら『体幹』が鍛えられる!?



小さいお友だちから大人まで楽しめる

友だちの和が自然と広がります

おすすめえほん

かもとりごんべえ

文・絵:いもとようこ
出版社:金の星社

鉄砲の腕前が上手じゃないごんべえさんは、一度にたくさん「かも」をつかまえようと、ある考えを思いつきます。その考えがうまくいき、100羽目をつかまえようとしたとき…!?



「大きな声」や「絵本を大きく動かす」等の過度な表現は、読み手への印象だけが残ってしまいます。絵本を通して豊かな想像力を広げられるように、「音量」や「スピード」を工夫してみましょう。
過度な表現は控えましょう

日本は古くから、語り継がれてきまです。言葉の響き話の面白さを伝えらつので、一つひとつのフレーズが素直に心に響きます。また、「こっけいさ」や人とな話は、大変奥深く、人々を魅了します。

日本昔話の良さ

昔話人から人へたものがほとんどリズムでそのおられたので、一つひとつに心に響きます。また、「こっけいさ」や人とな話は、大変奥深く、人々を魅了します。

読み終わってすぐ、ページをめくるのではなく、そのページを満喫してから次に移りましょう。読み終わっても、子どもは「余韻」を楽しみます。文字が書いてなくても、裏表紙まで見せてあげてください。
余韻を楽しませてあげて



かぐやひめ

著:いもとようこ
出版社:岩崎書店

日本最古の昔話。みなさん、ご存知ですか?竹取りのおじいさんが、いつものとおり竹を取りに竹やぶに行きますと、おや?不思議!根本の光っている竹が一本あります…。

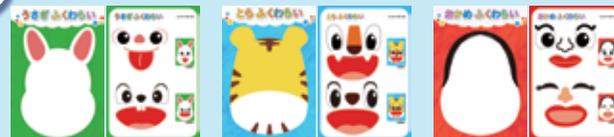


江戸時代に始まったとされる『ふくわらい』。どんな顔ができるかな?家族やお友だちといっしょに遊んで、いっぱい笑おう!!

楽しい『ふくわらい』が3種類!!



① ふくわらいをダウンロードする



うさぎふくわらい とらふくわらい おかめふくわらい



ふくわらいをダウンロード

② 線にそって、パーツを切る



目隠しをして…

③ さあ、遊びましょう!



目隠しをせず見本通りにパーツを並べてみましょう。

発展型



オリジナルでパーツを自分で作ると面白いよ!

パーツを手に取り、顔の中に並べてみよう。

いろいろなパーツをごちゃまぜにして面白い顔をつくってみよう!

幼児教育の無償化など (保護者負担の軽減)が実施されています!

幼稚園、認定こども園等を利用する3歳から5歳までの全ての
子供達の利用料が無償化されます。

幼稚園については、月額上限2.57万円です。
入園できる時期に合わせて、満3歳から無償化します。

通園送迎費、食材料費、行事費などは、これまでどおり保護者の負担になります。ただし、年収360万円未満相当世帯の子供たちと全ての世帯の第3子以降の子供たちについては、副食(おかず・おやつ等)の費用が免除されます。
※市町村、園により実施の有無が異なります。

【内閣府HPより一部抜粋】

2歳児子育て支援 利用料減免事業

幼稚園の2歳児子育て支援事業(満3歳児クラスや2歳児クラス)を利用する、満3歳の誕生日を迎えるまでの多子世帯にも、費用負担が軽減されることになりました。対象の事業については、各園にお問い合わせください。

幼児教育・保育の無償化概要については、内閣府HPをご覧ください。



幼稚園に いってみよう!

幼稚園に通う前の年齢のお子さんを対象に、子育て真っ最中のご家庭を応援する活動がたくさんあります。ぜひ参加してみてください。

「京都にあるすべての
私立幼稚園の紹介」
サイトはこちら



幼稚園の預かり保育

幼稚園の利用に加え、利用日数に応じて、
最大月額1.13万円までの範囲で
預かり保育の利用料が無償化されます。

無償化の対象となるためには、お住いの市町村から「保育の必要性の認定」を受ける必要があります。

※「保育の必要性の認定」の要件については、就労等の要件(認可保育所の利用と同等の要件)がありますので、お住いの市町村にご確認ください。

【内閣府HPより一部抜粋】

あたたかいモノ

私の人生の中で子どもをもつことができて本当に良かったと、生まれたてのわが子を初めて抱いた時に思いました…。そんなお話をしてくださる方がいました。

子育て真っ最中のお父さまお母さま、子どもたちがその家族にもたらせてくれるものは計り知れないくらい大きなものです。その大きなものを一緒に楽しみ、大切に、家族の宝物として育てていければ、きっと素敵な未来になると思います。

2019年から幼児教育の無償化が実施されています。このことは幼児教育の重要性が認められたことに他なりません。ではなぜ幼児教育が無償化になったのでしょうか。それは、人間が人間らしい営みを社会の中で発揮し、今の子どもたちが未来を生き抜いていってほしいという願いを持ち続けてきたからです。

AIやIoTなどがますます発達する未来の社会生活。20年後には今ある職業の半分がなくなり、今はない新たな職業に就くことになるといわれています。まさしく今の子どもたちが社会に出て活躍し始める頃です。では、今の子どもたちが未来を生き抜いていくためには、どのような力が必要なのでしょうか。それはAIにはできない何かを生み出すこと、創造力・想像力・人の気持ちに寄り添うこと・人を育てること・思いやる心・やり抜く力など、まさしく生まれてから小学校就学頃までに体験し、経験するたくさんの目に見えない力であるといわれています。

あたたかい家庭生活の中で、お父さまやお母さまのあふれる愛情をたっぷり子どもたちに注ぐことこそが、子どもたちの「こころのねっこ」を育てるのです。

子育ては育てるつもりが育てられ 大変な時が大切な時
～京都の私立幼稚園は子どもと向き合うご家庭を支えます～

(公社)京都府私立幼稚園連盟